

脱原発四日市市民の集い



活動紹介

■活動場所

四日市公害と環境未来館活動室
中部地区市民センターなど

■活動日

ほぼ毎月（主に第3日曜日に）事務局会議

■活動内容

3月・9月に市民集会（学習会）や街頭活動

○3月22日（土）福島原発事故避難者のお話を聴く会
岡本早苗さん（原発事故人権訴訟愛知岐阜原告団団長）

「原発事故から14年～手放したくない権利」

*「脱原発」を考える市民講座・四日市との共催

○9月6日（土）映画「原発夫婦」（監督：内谷正文）上映会

*芦浜原発反対闘争を戦い抜いた古和浦の漁師夫妻の生き様を、インタビューを中心に再構成したドキュメンタリーです。

○12月13日（土）環境フェアに出展

「原発ゼロ、自然エネルギーへの道を求めて」

「原発の風下 四日市」



代表者の想い

「福島原発災害は史上最大最悪の公害である」。これは四日市公害裁判で大変お世話になった宮本憲一先生（大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長）の言葉です。私たちはこの言葉を胸に、脱原発の啓発活動を続けています。

四日市市にとって「フクシマの悲劇」は決して他人事ではありません。福島原発から放射能が漏れたとき、主たる風下でもなく300kmも離れていた神奈川県で、特産の「足柄茶」から規制値を超える放射性物質が検出され、出荷制限を受ける事態となってしまったことは驚きであり衝撃でした。

なぜなら「原発銀座」と呼ばれる若狭湾岸と四日市はわずか90kmしか離れておらず、冬季の季節風の「風下」に位置しているからです。そのとき「水沢茶」はどうなるのか、四日市の水は・・・。

この危機感を共有していただきたいと思い活動を続けています。起きてからでは遅いのです。起きる前に立ち上がらなくてはなりません。原発ゼロに向けて！

PR

会員制ではないので会費はいただいていません。市民有志の賛同拠金（カンパ）によって運営されています。どなたでも参加歓迎です。特に若い方の参加を期待しています。

明日の四日市のために。